

輸 送 動 向 に つ い て (平 成 2 2 年 度 上 半 期)

平成22年10月

1. 輸送概況

上期は、7月に広島・山口地区において記録的な大雨による輸送障害が発生するなど、自然災害に起因する輸送障害が多発し、高速貨499本、専貨6本が運休となった（前年上期は、高速貨357本、専貨2本が運休）。

荷動きについては、前年、景気低迷の影響を大きく受けた輸出産業をはじめとした製造業の生産回復に加え、記録的な猛暑の影響により季節商品の発送が旺盛となったことから、全体を通して前年を上回って推移した。

コンテナ貨物は、農産品・青果物、積合せ貨物が前年を下回ったものの、自動車部品、化学工業品、紙・パルプなどが前年を上回り、全体では前年比105.2%となった。自動車部品、化学工業品、紙・パルプなどは前年の生産調整の反動により増送となった。また、家電・情報機器は、メーカー各社のモダシフトの取組みの進展に加え、猛暑によりエアコン等の出荷が好調となり大幅に増送となった。一方、農産品・青果物は、主に北海道地区の野菜類が春先の天候不順及び夏場の大雨・高温のため生育不良となり、大幅に減送となった。

車扱貨物は、セメント・石灰石が前年を下回ったものの、石油が前年を上回り、全体では前年比100.4%となった。石油は、4月に気温が低めに推移したことにより灯油の出荷が旺盛となったほか、夏場の猛暑の影響により自動車向けの揮発油・軽油が増送となった。セメント・石灰石は一部荷主の輸送中止により減送となった。

2. 輸送実績

(単位:千トン、%)

種別	上半期計		
	本年実績	前年実績	前年比
コンテナ	10,317	9,806	105.2%
車 扱	4,696	4,677	100.4%

3. 品目別輸送実績表

(単位:千トン、%)

扱 別	品 目	本年実績	前年実績	増 減	前年比
コンテナ	農産品・青果物	806	874	-68	92.2%
	化学工業品	1,015	938	77	108.2%
	化学薬品	755	701	54	107.7%
	食料工業品	1,682	1,653	29	101.8%
	紙・パルプ	1,581	1,511	70	104.6%
	他工業品	804	708	96	113.6%
	積合せ貨物	1,061	1,094	-33	97.0%
	自動車部品	413	303	110	136.3%
	家電・情報機器	242	196	46	123.5%
	エコ関連物資	172	169	3	101.8%
	その他	1,787	1,659	128	107.7%
	コンテナ計	10,317	9,806	511	105.2%
車 扱	石油	3,078	2,969	109	103.7%
	セメント・石灰石	611	654	-43	93.4%
	車 両	425	465	-40	91.4%
	その他	585	589	-4	99.3%
	車 扱 計	4,696	4,677	19	100.4%

(車扱の品目別輸送量は社線発送トン数も含む数値、本年は速報値、前年は確報値)